

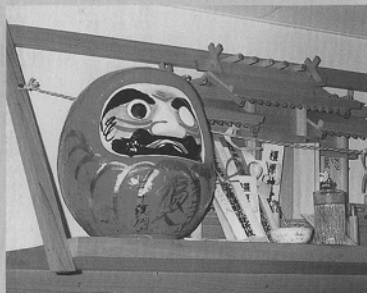
焼津やいづだるま



雄壮な髯の焼津だるまの製作風景

焼津市本町の滝実一さん考案のだるまです。父・孫藏さんが、だるまの販売店を営んでいたことから、手先の器用だった実一さんは、店独自のだるまを作って販売したいと思い、昭和五年冬、製作を始めるにあたって、約三百個のだるまの木型を彫りました。焼津だるまの種類は大きさが二尺五寸（約七十六センチ）から、一寸五分（約四・五センチ）まで十数種類があります。焼津だるまの特徴は、遠洋漁業の街であるだけに、随所に見られる威勢の良さにあります。頬の線が8の字型で、髯が太く、腹の文字も、一般的な「福」の他に「福入」「福寿」「大当」などが書かれ、雄壮な髯だるまとして人気があります。

藤枝の清水観音、焼津の虚空蔵尊、愛知の豊川稲荷、富士の毘沙門天などの縁日に出荷されています。昭和五十四年に実一さんが亡くなり、娘である二代目絹代さんと夫の義信さん夫婦が家業を継ぎ、今日に至っています。なお、平成四年十一月には長女の寿美子さんの作品が、日本民芸公募展に入選しました。



神棚かみだに飾られた焼津だるま



焼津・虚空蔵尊こくうざうぜんのだるま市